

平成29年4月定例教育委員会会議録

1. 開催日時 平成29年4月28日（金） 3時20分～ 5時20分
2. 開催場所 日野町役場201会議室
3. 出席委員 今宿綾子教育長、石岡孝浩教育長職務代理者、
西村吉弘委員、山田めぐみ委員、高橋政宏委員
4. 出席事務局員
教育次長 : 高橋 正一
学校教育課 : 参事 野瀬 薫 参事 正木 博之
生涯学習課 : 課長 日永 伊久男
図書館 : 館長 高浪 郁子
子ども支援課 : 課長 宇田 達夫

今宿 教育長	<p>それでは、ただ今から、日野町教育委員会定例会を開会いたします。</p> <p>4月の初めは冬日のような日が続いておりましたが、今日は大変爽やかな一日となりまして、あたりを見回しましても水田に水が張られ、いよいよ春本番かと思っております。</p> <p>委員の皆さま方には、こぼと園、必佐幼稚園の訪問をいただきまして、ありがとうございました。また後ほどいろいろご意見を聞かせていただきたいと思えます。</p> <p>4月10日の入学式、そして11日が入園式でございました。桜も満開になって子どもたちを祝ってくれました。さらに今週は各学校そして園のPTA 総会が開催されておりまして、いよいよ平成29年度がスタートしました。</p> <p>それでは、主な報告をさせていただきたいと思えます。</p> <p>まず、今年度のいろいろな団体の総会等が多く開催されておりまして、私もいくつか出席させていただき、町ではたくさん関係機関の方々がいろいろな活動をされているということ、そしてまた多くの方の力をお借りしているということを実感しております。町の教育の幅の広さを感じ、私も日々勉強させていただいています。</p> <p>4月を振り返ってみますと、委員の皆さま方には3日の辞令交付式、それから7日の県教委の行政重点説明会へのご出席を賜り、ありがとうございました。7日には、日野のまちの取り組みの発表依頼があり、特に通学合宿、防災合宿を中心に地域と学校、また子どもたちのかかわりについて発表させていただきました。</p> <p>発表に対するコメントや、他市の方々のご意見の中で、特に中学生の子どもたちが行事やイベントに参加しているというのは素晴らしいことだと聞かせていただきました。</p> <p>中学生になると、町の行事や取り組みから離れてしまうことが多いのですが、これも小学校の段階からかかわりを持って進めていく中で、子どもたちも気楽に、気軽に参加してくれるようになったことの流れかと思いま</p>
--------	--

すし、上からの押しつけでなく自発的な行動が見られるということで、大切な関わり合いができていると思っております。大事にしていきたいと改めて思いました。

戻りますが、4月1日には少年少女ミニスポーツ・カルチャー教室の開講式を行いました。スポーツ教室は10教室360人、カルチャー教室13教室130人の子どもたちが参加してくれまして、保護者や指導者の方々も含め、当日は体育館一杯に熱気があふれておりました。

このスポーツ・カルチャー教室も今年6年目に入りまして、教室が定着してきました。また参加の子どもたちが増えているということは、その輪が広がってきているのではないかと感じました。日野町の全校児童が1,132人でございますので、延べになりますが、43%の子どもたちが参加してくれていると数値として表れておりますので、これもありがたいことですし、また多くの方々に子どもたちを見守っていただいているということも改めて感謝したいと思っております。

それから2日は、文化懇談会という団体の方々が主催され、「文化フォーラム」が行われまして、そのあと車座懇談会に町長と一緒に参加させていただきました。ここでは主にまちの文化や文化祭についての意見をいただき、特にまちの多くの文化財の適切な保存、管理、展示、次の世代への継承が大きな課題であり、大事に考えていかなければならないということなどを意見交換させていただきました。

特に「文化財を活かした特色あるまちづくり」という観点で、強い思いをたくさんの方が持っていただいているということを感じました。

6日は、町内の小中学校の初任者研修を行いました。日野中学校1名、日野小学校2名、必佐小学校・南比都佐小学校・桜谷小学校それぞれ1名ずつの初任者を迎えております。

教職員組織で申しますと、年々、若返ってきておりますが、若いはずらつとした力、そのエネルギーを感じますし、そうした力のよい面を引き出して育てていくという観点が必要であります。組織の活性化という面から積極的に初任者を受け入れて、次の世代を育てることは我々世代の1つの大きな任務になってきていると思っております。

そして、入学式・入園式を無事に終え、スタートしております。

人数で申しますと、小学校では、日野町全体で193人の入学生です。そのうちの93人が日野小、必佐小が56人、西大路小が22人、南比都佐小が7人、桜谷小が15人となっております。中学校は189人の入学生でございます。

幼稚園では、年々、保育園のニーズが増えてきており、今年度、必佐幼稚園で緊急預かり保育を進めさせていただきましたが、この秋の募集がどのようになるかということも見据えながら、早い段階で、たちまちは次年度、そしてまた長期をどうしていくかを考えていくことが必要になってくると思っております。

4月17日ですが、西大路小学校に歌手の小柳ゆきさんが来てくださり、

「学び舎の歌声」というタイトルで、カメラが2台入りまして、1台が日野の街並みや商人館、綿向山、綿向神社を取材し、もう1台が学校に入り、校長の話、子どもたちの学校紹介、小柳さんが一緒に入っていた、4時間目の6年生の音楽の授業、5時間目の全校の子どもたちとの集会が取材されました。

この一日が30分番組にまとめられまして、5月6日の10時半からBBCとKBSで放映されますので、西大路小学校区の方だけでなく、町内の方にも見ていただけるように、先日タウンメールで紹介させていただきました。

翌日の4月18日に全国学力学習状況調査が行われました。参事と一緒に各学校の様子を見に回ったのですが、どの学校でも真剣に問題に向かっている姿が見られ、よい傾向であると思っています。

教師としては日々の授業のあり方を今後も工夫をしていくことが大事ですし、子どもにとってはしっかりと主体的に学び、意識してつかみ取るというような気持ちが大事でありますし、また保護者さんにとっては基本的な生活習慣をつけることですか、子どもの生活をしっかりと支えるという意識を持っていただくということが大事なので、調査は10年目になりますが、その意義をしっかりと確認しながら学力の定着を目指したいと思っています。

問題としては非常に長い文章が出てきておりまして、しかも漢字の記述などの、基本的な出題が6番か7番目ぐらいのところに出てきていますので、そこまでたどりつけないのではないかと思われるような問題の配列でした。文章力・読解力をしっかりと身につけなければならないと強く感じました。

また、4月20日に、先ほど申しました初任者の教職員と、町に転任してくれました教職員の研修会をさせていただきました。主に町内の施設を中心に町内めぐりをしまして、まず日野のまちへの理解を深めていただく取り組みをさせていただきました。

ふるさと邸、商人館、中野城跡などに行かせてもらいましたが、中野城跡では、「これは『るろうに剣心』のロケ地ですよ」と言ったら若い男の先生が急にパッと輝いて、映画の内容を良く知っておられ、「すごいところですね、日野は」と話してくれましたので、やっぱり若い人の関心というのは、いろいろなアプローチがあるのだと思いました。

4月25日は町P連の総会がございました。中学校のPTA会長さんが学校の様子を知りたいと言われ、翌4月26日に一緒に見学させていただき、中学校PTAとしてできることをいろいろ考えて進めていきたいという、大変心強いお話をいただきました。

また、昨日4月27日から日野中学校は長崎の修学旅行に出発しております。1つ残念なことは、その前からインフルエンザが流行っていたので心配しておりましたが、1人、旅行中に罹患しまして、途中で帰らなければならぬ子が出たということです。

<p>今宿教育長</p>	<p>以上、4月の報告とさせていただきますと思います。</p> <p>それでは、本日の定例会を議事日程に基づき進行します。</p> <p>日程3の前回委員会（3月定例会・臨時会）の議事録の報告については、お手元に配布の議事録のとおりであり委員各位においてご覧いただき、異なるところがあれば事務局までご連絡をお願いします。</p> <p>続きまして、日程4の経過報告に移ります。学校教育課から順次報告をお願いします。</p>
<p>野瀬参事 宇田課長 日永課長 高浪館長</p>	<p>（各課から報告）</p>
<p>今宿教育長</p>	<p>ただいまの経過報告について、ご質問などございませんか。</p>
<p>西村委員</p>	<p>いくつか感想のような形になりますが、申し上げます。</p> <p>1つは、年度初めの異動で事務局を新しい体制にさせていただいて、非常に充実したという感想を持ちました。特にふるさと館に専任の館長を設けていただいたということは、これからの事業を推進していくうえで方向性も明確になって、いいなというふうに思います。全体として大変よかったと評価される人事ではないかと思います。これが第1点です。</p> <p>それから、4月7日に県の教育行政の重点施策説明会がございました。日野の発表については教育長から丁寧に言っていただきまして、非常にたくさん内容のある資料をつくっていただいて、あとで勉強させていただいたような次第でありまして、大変よかったと思っております。</p> <p>ただ、この説明会は上意下達と言いますか、言わば上から下へということでの説明会でございますので、やむを得ないこととは思いますが、とは言え、前回よりはそれぞれ発表される方が、要点をわかりやすく言っていただいたという印象がございます。また、資料も前回よりかなりコンパクトになっているし、行政重点施策の冊子も、前回より半分近くカットされている。ポンチ絵の部分とか、スポーツ課の部分が削除されているのと、あとの参考資料として付いていたものがカットされておりました。予算を伴う事業として、非常にはっきりしてよかったと思っております。</p> <p>ただ、この中身をどうやっていくかという意味では、近江八幡市の日岡教育長さんのご発言がございましたけれども、新しい課題等もあって取り組みがたくさんある一方では「働き方改革」が叫ばれている。そういう中でいったい現場はどうかということから言えば、教職員の定員を増やさないと仕方がないのではないかというようなご意見がございました。教職員の定数を増やすのは大事な話だと思いますが、同時にそれなりに仕事の中身を整理して行って、減らすものは減らさないで大変ではないかとい</p>

今宿教育長	<p>う思いがしました。私は日岡教育長さんがおっしゃった学校現場への影響という意味では、同感しました。</p> <p>それから、これも最近、文科省をめぐるいろいろな天下りの問題とか教科書検定の問題とか、森友学園から教育勅語に至る問題とか、あるいは学習指導要領で、武道で銃剣道が入ったとか、そういう話が1つあるのと、もう1つは学習指導要領の中で聖徳太子（厩戸王）をパブコメの結果復活されました。前者については、歴史に学んで再び誤りを犯さないようにという意味での、どういう道を歩むかという意味では大変重要な問題ではないかと私自身は感じまして、危機感を持ちました。</p> <p>それから厩戸王の話は、新しい知見というものも大切にしていくという意味では、知的権威というか、そういうものをきちんと持っていくということでは、パブコメの結果で変わったということについては、私は疑問を持っております。そういう意味では教育長がいつもおっしゃる「不易と流行」というものに関して、そこはよく吟味していただかないといけないという感想を持ちました。</p> <p>最後は、昨日、京都新聞を読ませていただきまして、高浪館長さんのお話をきちんと読ませていただきました。同時に今朝の新聞では、京都市の図書館で重要な資料を、桑原武夫さんの寄贈された蔵書1万点余りを廃棄されたということで、非常に大きな誤りが起こっているということを新聞で拝見しました。そういう意味では、図書館が持つ役割というものを私自身は再認識もいたしましたし、もっと大事にしていけないといけないという思いを強くいたしました。</p> <p>以上、感想めいた話で恐縮です。</p> <p>貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。</p> <p>特に4月7日の教育行政方針説明会につきましては、今年度は、「この方針でいこう」と計画的に進められていまして、例えば日野町の発表についてはコメントを誰がするのか、この内容の発表に対して、それを「全県下にこういうような方向で広げていこう」というような県の意図を感じました。少しずつ整理しながら有効な意義があるものにしていただきたいと思います。</p> <p>働き方改革について根本的にもっとすべきことがあるのではないかと、うご意見が出ていたわけですが、西村委員さんがおっしゃったように、確かに日野町教育委員会は、すごく現場に近いので、現場の先生方の動きはよく見えます。一方で文部科学省の方針が、この間、右往左往しているとか、そういったところも感じるところもございませう。</p> <p>特に方針だけが先に示され、具体的な取り組みの施策が示されないままに、やりながら整理しているような感じで、その都度、その都度、どのような見通しを持って対応していけばよいかを考えています。どういう子どもを育てたいのか、何をしたいのかということを中心に持つ必要があると思っています。公教育を預からせてもらっていますので、しっかり町と</p>
-------	--

高橋委員	<p>して、大事にしていくことを見失わないようにしていきたいと思います。ありがとうございました。ほかにございますか。</p> <p>4月7日は事情で参加できなくて、申し訳ございませんでした。今資料をいただきましたが、滋賀県教委も組織を、義務教育と県立学校に分けて3年目になっていると思うのですけれど、とりわけ日野町の教育を考えるときに、今年度、日野町の教育で一番何を重点にするのかというのが課題かなと思います。いろいろ書き物などは年度末からありますけれど、どうということになりますか。「日野町が一番力を入れてやること」です。</p>
今宿教育長	<p>一番と言いますか、たちまちは、これから求められている教育は何かということで、その対応を今年度からしていく必要があります。例えば新指導要領の特に大きな変化（改訂）は、小学校の内容が大きいのですけれども、英語の教科化、道徳の教科化の対応として、カリキュラムを含めてきちんとしていくというのが大きな柱です。</p> <p>次期指導要領への対応につきましては、外国語活動、学ぶ力の向上、特別支援教育の推進など6点あげまして、それぞれ組織をつくって始めているところです。</p> <p>また、ふるさと日野の教育充実にあたって、地域の方と連携をしながら進めていきたいと考えています。</p> <p>そして、若い先生方をしっかり育てていこうということを、29年度の最重点として、先生方にも意識していただくように、常に言わせてもらっております。</p>
高橋委員	<p>関連しまして、全国学力学習調査のことです。あれに一喜一憂するのはいけないと思いながら、継続的に、まず日野の子どもたちの生活の仕方がどのように変わってきているのか。古い話でありますけれど、私がいさせてもらった時には、あれを材料にしてフォーラムを、当時は滋賀大と一緒にしたわけですが、数値ではなくて、子どもの傾向をこういうふうに向けていこうとか、そういうことを親さんに知っていただく「会」を、今年度はぜひともお願いできたらありがたいと思っております。以上です。</p>
今宿教育長	<p>ありがとうございます。特に先ほど言いました重点では、今年度、委員の皆さま方にもご意見をたくさんいただいておりますので、予算にも反映させていただいたと思っております。</p> <p>外国語（英語）につきましては、ネイティブの指導者を1人つけていただくことになりましたし、ICT教育については、全小中学校にタブレットを設置することができますので、それを使っての活用を、現場の先生方の声を聞きながらしたいと思っております。</p> <p>それらのことをしながら「学ぶ力」をどうつけていくかということですが、特に学力テストの中の生活実態調査から、子どもたちのテレビの視聴</p>

<p>今宿教育長</p>	<p>の時間やLINEをしている時間、読書の時間が少ないとかが、去年も大きな課題となっていましたので、PTAや地域の方に呼びかけて、機会があるたびに少しずつそういう話をさせてもらっていきたいと思っています。</p> <p>ほか、よろしいでしょうか。それでは、また後の方でもご意見いただけたらと思います。</p> <p>他にご質問やご意見はございませんか。無いようですので、日程5の議事に入ります。</p> <p>「議第1号 日野町就学指導委員会委員の委嘱または任命について」を議第とします。事務局から提案説明をお願いします。</p>
<p>野瀬参事</p>	<p>(提案説明)</p>
<p>今宿教育長</p>	<p>提案説明に対してご質問などございませんか。</p> <p>質問やご意見も無いようですので、承認することとしてよろしいか。</p> <p>(異議なし)</p>
<p>今宿教育長</p>	<p>それでは、「議第1号 日野町就学指導委員会委員の委嘱または任命について」を承認することとします。</p> <p>次に、「議第2号 日野町奨学生選考委員会委員の任命について」を議第とします。事務局から提案説明をお願いします。</p>
<p>高橋次長</p>	<p>(提案説明)</p>
<p>今宿教育長</p>	<p>提案説明に対してご質問などございませんか。</p>
<p>高橋委員</p>	<p>奨学金条例は年齢的に言うとどこまででしたか。</p>
<p>高橋次長</p>	<p>日野町奨学金条例は、高校生と大学生と、2つの枠のところに日野町として町単独で奨学金を貸し付けるということでさせてもらっております。利子は無利子で、高校生の場合は月額1万円、大学生（専門学校生）については月額2万円です。</p>
<p>高橋委員</p>	<p>何年間で返すのですか。</p>
<p>高橋次長</p>	<p>無利子ということで、原資は当然返していただくということで、貸与ではなくて貸付でございます。</p> <p>卒業されたらその次の年度からお返しいただくということで、貸付した期間の倍の期間で返していただくということになります。</p>

高橋委員	<p>ありがとうございます。私が今勤務しているところは、全国から来ていますけれども、かなりの学生さんが奨学金を受けておりますので、そういう施策はありがたいと思っております。日野から何人行っているのかはわかりませんが、非常にありがたいと思います。</p>
石岡委員	<p>これは前にも確か聞いたと思いますし、それなりに延滞や滞納があつて、利用状況も少ないという状況でしたね。</p>
高橋次長	<p>額的にあまり多くないので、27年度まではほかの学生金支援機構とかで借りておられる方は日野町奨学金は貸しませんということになっていたもので、単独で日野町だけの奨学金を受ける方というのは月額1万円とか2万円だけを借りていただくということでしたので、利用があまりなかったということでした。</p> <p>28年からは、制限はありますけれども、学生機構等で借りられている方についても一部並行して貸すということに変えさせていただきましたので、それをご利用が増えるかと思っておりますけれども、28年度実績としてはそんなに増えておりません。</p> <p>滞納としては、全然入ってないという滞納は今のところないですが、返していただくときのお話合いの中で、本当は貸した期間の倍の期間で返してもらうということになるのですが、そこは分納というか、延ばしておられる方はおられますが、丸っきり滞納で不良債権になっているものは、今のところはないという状況です。</p>
今宿教育長	<p>28年度に、より借りていただきやすいように条件を変えさせていただいております。学校の校長先生も委員に入っておりますので、その辺のところは生徒たちの様子を見ていただいて、また声掛けもしていただけたらと思います。他に質問やご意見やよろしいでしょうか。</p>
今宿教育長	<p>他に質問やご意見も無いようですので、「議第2号 日野町奨学生選考委員会委員の任命について」を承認することとします。</p> <p>次に、「議第3号 日野町立図書館協議会委員の任命について」を議第とします。事務局から提案説明をお願いします。</p>
高浪館長	<p>(提案説明)</p>
今宿教育長	<p>提案説明に対してご質問などございませんか。</p>
今宿教育長	<p>質問やご意見も無いようですので、「議第3号 日野町立図書館協議会委員の任命について」を承認することとします。</p> <p>それでは、議事を終了し、日程6の今後の予定等について、学校教育課から順次説明をお願いします。</p>

<p>野瀬参事 宇田課長 日永課長 高浪館長</p>	<p>(各課から説明)</p>
<p>今宿教育長</p>	<p>以上、今後の予定の説明が終わりましたが、ご質問ございましたらお出しください。</p>
<p>高橋委員</p>	<p>以前もたぶん聞いたと思うのですが、5月9日に地域学校協働活動推進事業説明会とあがっているのですが、「事業」とありますので、目に見える活動を狙っておられると思うのですが、私などが思っているようなコミュニティスクールに似たような活動を、最終的には町の事業として成り立たせていこうということをお考えですか。</p>
<p>野瀬参事</p>	<p>今ご質問いただきました地域・学校協働活動推進事業と言いますのは、学校を支えるという意味と、地域の教育力のアップということで、地域の皆さまがいきいきと活動していただくための一助となればということで、学校を核とした地域力アッププランの中の1つの事業としてさせていただきます。</p> <p>コミュニティスクールにつきましては、現在、想定はしておりません。ご説明させていただきましたが、日野町地域学校協働活動推進本部のもとに、各小学校区に協議会を設けまして、その協議会の中で学校を支援し、地域の皆様の活動を活発にさせていただき、Win-Winの関係ができるようなものをつくっていききたいということが本事業の趣旨でございます。</p>
<p>高橋委員</p>	<p>ということは、それぞれの校区で小学校が核になって、現在もいろいろな活動をされていますよね。それとこれとはどう違うのですか。</p>
<p>野瀬参事</p>	<p>現在の活動におきましては、各担任が前年度の対応を進化・発展させて、地域の方々の協力のもとさせていただいております。そのことにつきましては、非常に充実したものになっているかと思うのですが、地域の皆様により学校に足を向けていただくようにということで、地域コーディネーターをお雇いさせていただきまして、各学校に配置させていただきます。年間350時間ですけれども、その地域コーディネーターの方が学校の要請に応じて、例えば地域の方々の支援を得るためのパイプ役と言いますか、つなぎ役をしていただいて、学校を盛り上げていただき、また地域の方々には学校に足を向けていただきやすいように、また地域の方々がちよっとした生きがいを持っていただきやすいような活動を展開できるようにということを願っております。</p>

高橋委員	<p>理屈っぽい話になりますけれども、活動に凹凸が生じませんか。要するに、より活発な校区とそうでない校区、地域コーディネーターさんというのはどういう方を想定されているのかわからないのですけれど、その辺教えてください。</p>
野瀬参事	<p>確かに学校ごとに特色が出てくる可能性はあるかと思います。ただ、学校を一気に100%を目指すのではなくて、現在やっつけるところはより充実させ、一步一步高めていきたいと考えております。</p> <p>したがって、例えば桜谷の「ほっとけん隊」さんが築いてこられたようなところに、一気に違うところも追いつくというのはなかなか難しいかも知れませんが、あの姿も1つの理想といたしまして、各学校が地域の皆様とともに一步一步上がって行って、活性化をしていきたいと考えています。</p>
高橋委員	<p>くどういのですけれど、例えばそれは中学校レベルで言うと、どういうイメージを持った方がいいのですか。</p>
野瀬参事	<p>中学生レベルの例になるかどうかわかりませんが、私は小学校が現場です。小学校レベルの話にさせていただきますと、例えば2年生ですと「畑の野菜を育てよう」という単元があります。今までですと、畑作業に不慣れた教師が子どもとともに四苦八苦してやっているという状況ですが、地域の皆様には「畑の先生」と呼ばれるような立派な畑をつくっておられる方がいらっしゃいます。地域コーディネーターの方がその方々にお声をかけていただきまして、2年生の子が畑をする時に地域の「畑の先生」が来ていただいて、子どもたちと一緒に畑の世話をします。「おじいさん、どこから来てくれたの?」「また今度これができたら呼ぶよ」というふうな交流が持てればよいと考えています。</p> <p>また、5・6年生では、例えばミシン活動等させていただきますが、1人の教師が何台ものミシンの中で「ボビンがうまく取り付けられません」とか「糸が切れました」とかいうふうな状況が毎日家庭科の中で起こります。そういう時に地域の皆さまが学校へ足を運んでいただいて、「ミシンだったら教えられる」という方が負担のない程度で子どもたちの班について支援していただく。その中で「おばちゃん、ありがとう。うまくいったわ」というような交流が持てれば、その方にとってもプラスであろうし、子どもたちにとっても先生を待っているような無駄な時間が無くなるということで、学習も充実していく。玉止めひとつにしてもなかなか家庭ではしませんので、近くに教えていただける方がついていただくだけでもだいぶ変わってくるかと思えます。そのような活動を通して、地域の皆さまが学校に足を運んでいただき、学校の教育活動がより充実することを目指しています。</p>

高橋委員	<p>わかりました。だったら余計に私は思うのですが、日野町の小さいお子さんから高校生まで、たくさんいるわけですので、この日野町に愛着を持つ、仕事についてもここに残って仕事をしていくという、そういうビジョンみたいなものを、各校区に任すのではなくて、それは教育委員会の中の組織できちんとビジョンを打ち出して、それでこうしましょうというようなことが、私は思っているわけですが、またよろしく願います。以上で終わります。</p>
野瀬参事	<p>おっしゃっていただいたとおりかと思います。そのような形で、教育長が先ほどご説明されました4本の柱を充実させる、ふるさと日野を愛する子を育てるために、1つの手段として活用していきたいと考えております。</p> <p>また、結果としては働き方改革の1つの手段にもなってくるかと思しますので、教育委員会といたしましても地域コーディネーターの方と協力いたしまして、研修を積み、そのような姿になるように努めていきたいと思っております。どうぞよろしく願います。</p>
高橋委員	<p>この日は、誰でも聞きに行ってもいいのですか。</p>
今宿教育長	<p>来ていただいて結構です。</p> <p>出席をお願いしているのは、校長、地域のコーディネーターの方、そして学校の地域コーディネーターの先生、各学校3人ずつ集まってもらうのです。3人×5校で15人集まっていいただいて、教育委員会も事業の説明と、それぞれの取り組みや思いなどを交流して、教育委員会が求心力を持つというところでスタートするのですが、それぞれ各学校、地域の方々が学校に来てくださるような素地としては、十分どの学校も交流されています。</p> <p>地域の方と一緒に日野菜のお漬物づくり、昔の遊び、田んぼの学校、歴史活動など、どの学校も工夫して取り組んでいるという素地があるので、十分できているのですけれども、この事業をすることによって、今までの整理もできてきますし、どういう狙いを持っているのかというのが町内全体でも共通理解できますので、先ほどおっしゃっていただいたコミュニティスクールという概念ではなくて、名前が長いので、5月9日に提案しようと思うのですが、この事業の名前を「ふるさときずな事業」という名前にしようと思っています。</p> <p>そして、それぞれの学校の特色を活かした、例えば西大路だったら「わたむき学校のわたむき支援」とか、そういうふうな自分の学校の特色を言葉で表せるようなネーミングを考えてきてくださいと言っているのですが、それぞれの学校の事業が「ふるさと・きずな」につながっていくというような形として、今取り組んでいることが目的に沿ってちゃんとできているかということを今回は整理していこうと思います。</p> <p>一昨日は赤十字奉仕団の方が家庭科などの支援に行きますよと言いに来</p>

	<p>てくださったりしていますし、環境整備とかいろいろな観点で、それぞれの学校の情報なども紹介し合いながら、あまり気負わないでやりながら、結果としてはいい形のものがつくれたらと思っています。</p>
高橋委員	<p>ありがとうございました。</p>
今宿教育長	<p>ほかによろしいでしょうか。 続きまして、日程7のその他に移ります。 担当から、順次説明させていただきます。</p>
野瀬参事	<p>*平成29年度滋賀県教科用図書第3採択地区協議会委員について</p>
高橋次長	<p>*教育委員会事務局・幼稚園・小学校・中学校の体制について</p>
高橋委員	<p>1つ要望です。今、新しい事務局体制がスタートして、いいなと思っております。</p> <p>私事になりますが、昔ここに置いていただいて、日野中にもいたわけですが、子育て教育相談センター、具体的な場面で言うと、今から思い出しますと、なかなか、例えば学校に行きにくい、行きづらい、そういうことを具体的な場面で相談するとき、私だけの経験かもわかりませんが、ドクターを呼ぶことはできなかったのです。</p> <p>古い話の記憶しかありませんけれど、当時、私は甲賀にいたのですが、甲賀圏域に1人は精神科方面のドクターがおられたと思いますし、東近江圏域にもそういうドクターがおられて、そういう事案が起こった時に私は土山にいたのですけれど、ドクターにもいろいろな会議に来てもらって、なかなかうまくいかなかったのですけれど、例えばそれは何年も家に閉じこもっていて、法で定められているような健康診断を受けてないと。そういうお子さんがいたわけですが、そういう時にはその圏域のドクターに来てもらうことは可能であったのですが、私がここで勤めている時には、そういうお子さんには出会わなかったわけですが、ある意味では教育相談なりのカウンセラーさんとかありますけれど、ドクターにお力を借りられたらよかったと思ったこともありましたので、そのあたりは今はどうなっているのですか。わかるところで結構です。</p>
野瀬参事	<p>今ご指摘いただきましたように、医療機関につないでいくことが必要なお子様というのは、やはりおられます。その点につきましては、野崎室長のもとで赤尾先生がいてくださいますし、赤尾先生等が面談をする中で医療機関につないだ方がいいとご判断になった場合には、速やかにつないでいただいています。</p>
高橋委員	<p>医療機関というのが、当時なかなか難しかったのですよ。簡単にいかな</p>

	<p>かったのです。東近江圏域と言っていいのか、枠組みで言うと。甲賀とかの圏域、地域、そういうのにかかわっておられるドクターが1人はおられると思うのですよ。</p> <p>例えば湖南でしたら今名前がどうなっているかわかりませんが、ドクターがいました。</p>
野瀬参事	<p>十分なお答えにはならないと思いますが、個別個別で赤尾先生がつないでいただいていると聞いております。相坂先生にご相談ということでつないでいるお子様もいらっしゃるし、滋賀医大のこちらの方にある県立の精神福祉センターというのでしょうか、ああいうところにつないでいただいたり、個人のクリニックにつないでいただいたり、特定のところでなく、個別で正確な情報は持っておりませんが、そういうふうなところに適切につないでいただいていると把握しております。</p>
高橋委員	<p>ありがとうございます。わかりました。</p>
西村委員	<p>質問ですけれども、服部さんが所長をなさっている少年センターというのがありますね。あそこはどういう位置づけといたしますか、教育委員会とはどういう関係ですか。わりあい中学校などは非常に生徒さんを通しての横の関係があるように見受けられるのですが。</p>
高橋次長	<p>少年センターについては、こういう組織図の中に入ってくるという組織ではございませんが、運営については、町長が長で運営協議会というものを持ってまして、町の進める行政目的等も勘案する中で、運営委員会を適宜開催して、その枠組みの中で少年センターは仕事をしていただいているということでございますが、こういう線でつなぐところに並列であがってくるという組織ではない位置づけです。</p>
西村委員	<p>わかりました。</p>
今宿教育長	<p>いじめとか虐待とか貧困とか、いろいろな課題を子どもたちは背負っていて、学校の中で様々な症状が出てくるわけですので、それらのことを一担任とか一つの学校だけが抱えきれないような状況がここ何年か起こっていますので、専門家の方としっかりかかわりながら、専門性を活かしながらチームでしていくということは大事なことです。そういう組織・体制づくりを進めています。その中の少年センターさんの役割というのがあって、中学校と連携を常にしてもらっています。</p> <p>子育て教育相談センターについても、今年は特にアウトリーチで学校へ出かけて行って、臨床心理士の赤尾先生が心の教育の授業も入ってくださっています。今まで生徒指導上の課題に対応するということが、大変だったのですけれども、学校が落ち着いてきた中で不登校の課題は、子どもに寄</p>

	<p>り添ってしっかりとかかわっていくということの大切さ、教育相談的なマインドでかかわるということのスキルを身に着けるために、教育相談センターが学校へも行って、授業もしながらともに進めていこうという動きが出ています。</p>
高橋委員	<p>私も中学校に置いてもらっていましたので、そう思うのですが、いわゆる中学校で言う純然たる生徒指導は一生懸命してきたという印象はありますけれども、片ややはり、子どもに寄り添っていくような部分、カウンセリングマインド的な授業というものもあるわけで、そういう声があがってきていることはいいことだと思うし、そのこともまた日野中教育にプラスになっていくと思いますので、またよろしく願いいたします。</p>
今宿教育長	<p>ありがとうございます。それでは、進めさせていただいてよろしいでしょうか。</p>
正木参事	<p>* 総合教育会議についておよび今後の定例会について</p>
高橋次長	<p>* 5月の定例会の案件について</p>
今宿教育長	<p>他に連絡事項があればお願いします。</p>
石岡委員	<p>* 「弾道ミサイル飛来について」の文書について</p>
日永課長	<p>* 西大路公民館の改修計画の補正について</p>
今宿教育長	<p>以上を持ちまして4月の定例会を終了します。</p>